

東京マラソンは、今や東京の代表的なスポーツイベントである。今大会、市民ランナーの川内優輝選手(埼玉陸協)が日本勢最高の3位に入り、今夏の世界選手権(韓国・大邱)代表に内定した。トップランナーを押さえて実力での代表入りである。日本陸連は強化指定選手とする方針を打ち出した。そうなれば強化費が支給され、練習に打ち込める環境が十分に整うことだろう。市民ランナーの活躍に期待したい。

このような強化指定選手の制度は日本のスポーツ界にはよくあることである。実績が認められて初めて強

SPORTS MUST CHANGE

谷塚 哲



化費が支給される。練習環境が良くなる。さらには早い段階から一部のエリートのみを対象に特別の指導をする。確かに実績のある選手を中心に強化することは効率的かもしれない。

しかし、ダイヤの原石は

原石発掘に投資を

地中深くにまだまだ眠っている。地表から顔を出しているダイヤモンドだけを拾い集めていても、その数には限りがあるし、少ない頭数ではなかなか世界には対抗できない。ならば少ないダイヤモンドを磨くことに

ばかりに気をかけるのではなく、むしろ地中深く眠っているたくさんのダイヤモンドを掘り起こせる仕組みに多くの投資をする方が重要ではないだろうか。

イタリアのビッグクラブ、インテルミラノでプレ

で補償金的な意味合いのお金が回る仕組みになっている。これは、その選手を育てたのは所属時のクラブだけでなく、その前の所属クラブ、そしてその前のクラブにも実績があると考えられているからである。この

する長友佑都選手の移籍に際しては、前所属クラブ、そして小学校時に所属していたクラブにまでお金が回ったそうだ。サッカー界では移籍時に所属していたクラブだけでなく、それ以前に所属していた数クラブま

ような考え方、仕組みがあれば各クラブも選手の育てがいがあるものだろう。世界に通用する日本人選手を育てるためには、苟(たけ)のこのように自然と芽を出す数人のエリートだけに莫大(ばくだい)な投資

をするだけではなく、可能性があるダイヤの原石を掘り起こす育成に十分な投資をするべきである。育成の中心である中学校、高校、そして地域クラブは必ずしも十分な資金があるとは言えない。皆少ない予算の中で必死に選手育成を行っている。その姿には頭が下がる。日本スポーツ界もサッカーを例に、もう少し育成にお金が回る仕組みを考えてみてはどうだろうか。なぜなら、必ずそこに将来のスター選手が眠っているからである。

(REGISTA有限責任事業組合代表)

隔週土曜日掲載